

各教科及び道徳	学習状況	指導上の課題	改善の計画	評価の方法
国語科	自分の考えをしっかりともった状態で、少人数グループでは話し合いができる。読書活動にも積極的に取り組んでいる。	文章構成を考え、自分の主張が相手に伝わるように、データや資料をもとにしてより具体例を入れながら書くこと。	振り返り感想など、書く機会を多く設け、書くことに慣れるようにする。目的に応じた書き方をするために、データや資料を根拠とし、自分の主張が相手に伝わる文章を作成させる。	自己評価や友達による他者評価を繰り返ししながら、客観的に自分の表現を分析する。その振り返りを評価する。
社会科	調べ学習で作業的・体験的な学習に熱心に取り組んでいる。また資料や既習事項を関連付けて根拠をもって学んでいる。	授業の中で考えたり判断したことを、発展させたり応用したりする力をつけること。	課題について、教科書や資料集から関係ある記述を自分の言葉でノートやデータにまとめ、記述の関係性を考えさせることを通して、理解を深めさせる。また、発展・応用について考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする場を設定する。また、学習者用端末も活用する。	課題に対する自分の考えや記述を基に、主体的な態度、思考力・判断力・表現力等が培われているかを授業中の様子やノートなどで評価する。
算数科	学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題類題に取り組んでいる。より多くの練習問題を解き、習熟を図るとともに、交流の場で互いの考えを共有できるよう取り組んでいる。	①既習の内容を使ったり、図や式に表したりして、自力解決すること。 ②通分・約分と分数の乗除を確実に身に付けること。	①問題場面に合った図や数直線をかき、求める数量をxやyとして式を立てることを、解決の手だての一つとして指導する。解決の見通しを学習者用端末で共有させ、習得した手だてを活用させるようにする。 ②前学年までの学習と関連付けて補足説明したり、知識・技能習得のために練習問題に多く取り組ませたりする。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、他者の解法への気づきを、ノート記述や発表で評価する。評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	観察・実験などの体験的な学習と映像などの理科教材を用いた学習に特に関心が高い。	①器具の名称などの知識を身に付けたり使い方を理解したりすること。 ②実験・観察の結果や考察・仮説を基に、妥当な考えを作り出すことができるようにすること。	①名称などを授業の中で意識的に使うようにする。1人1実験やグループでの実験の回数を増やす。 ②問題→予想(仮説)→実験→結果→考察→結論の流れを繰り返し行い、定着を図る。考察で考える観点を示す。	実験結果に関する自分の考え、あるいは感想の内容によって、思考力が養われているかノートの記述や発表内容で評価する。
音楽科	友達と合わせることの喜びを感じながら、二部合唱や、リコーダー演奏を楽しんでいる。楽器の奏法に興味を持ち、音の重なりを確認しながら、器楽合奏に取り組んでいる。オーケストラについて理解を深め、鑑賞活動をしている。	①思いや意図をもって表現するなど創造的に音楽に関わること。 ②歌声や楽器の音色に注意して鑑賞活動すること。	①楽器の音色に気を付けて、即興的に演奏したり、聴き取ったりする活動に継続的に取り組ませる。 ②一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさを伝え合い、共有したことを演奏して試すようにする。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	自分や友達の作品について、よさや面白さを感じ取っている。わからないままにしたり、わからないとあきらめがちだったりする児童がいる。	①自分の思いをもち、探究心をもって表すこと。 ②つくりたいものに合わせて道具や材料を生かしてつくること。	①友達と意見を交流して自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。児童の実態や思いに合った題材を設定する。 ②友人の制作過程の作品を鑑賞しながら意欲につなげる。1~5年までの学習を生かしながら活動させる。	活動の様子・発言・作品・ワークシートなどを通して評価する。
体育科	それぞれ課題と目標を決めて、意欲的に体を動かしている。教え合いながら、運動に取り組んでいる。	①運動を日常的に行い、体力を高めること。 ②自分やチームの目標を達成するために、粘り強く運動に取り組むこと。	①体力テストの結果をもとに、個々の課題を明確にして、意識的に目標達成のために必要な力とその鍛え方を授業の中で照らして例示する。 ②学習者用端末などを活用した話し合いの場を意図的に設け、目標を明確にすることや困っていることを明確にして話し合わせる。振り返りから取り組み方を考えて活動するよう指導する。	体力の向上に向けた取組態度と意欲で評価する。また、学習カードや授業中の発言を通して評価する。
家庭科	学習に対して興味・関心をもって取り組んでいる。調理実習については大変意欲的である。	調理や洗濯、裁縫など獲得した技術や知識を家庭生活で実践生かしていくこと。	教材を家庭での生活により関わりがあるものになるよう工夫し、家庭での実践機会を増やしていけるようにして、技能の習得につなげる。	計画や実習での作品、振り返りカードを総合的に評価する。

<p>外国語</p>	<p>語句や基本的表現を理解し、自分の思いや考えを表現しようとしている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面に応じて情報を整理しながら、考えをまとめて表現すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事柄について、音声で十分に慣れ親しみ、語彙や基本的な表現について推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の気持ちを伝え合う。 ・児童一人一人の課題を把握することで、適切な声掛けをしていく。 	<p>活動の様子、発表、ワークシートなどを通して、評価する。</p>
<p>道徳</p>	<p>登場人物の気持ちを考え、話し合うことを通して、道徳的心情・態度、実践力を養っている。</p>	<p>道徳的価値の理解、人間理解、他者理解について深めていくよう指導すること。また、自分事としてとらえ、生活に生かしていくこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的・多角的に考えさせる。 ・自己の生き方を見つめ直し、それを改善していこうとする思いや願いを深めることができるように、授業の中で自分を見つめる時間を確保したり、学級全体での話し合い活動を充実させたりしていく。 	<p>自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容で評価する。</p>